

## ぼくのミニトマト

小学二年 水口さとる

生かつのじゅぎょうでミニトマトをそだてました。ぼくのミニトマトはどんどん大きくなり、赤いみをつけました。三つ赤くなったのを家にもって帰り、お父さん、お母さん、お姉ちゃんに食べてもらいました。いつもぼくのおせわをしているからです。ぼくはミニトマトを小さいたねの時からおせわをしました。毎日水をあげ、わきめをとり、名前をつけてかわいがりました。だけど学校が休みの時はぼくのかわりに先生がミニトマトに水をあげてくれていると知り、ぼくのミニトマトはぼくのみでそれだけではないと気がつきました。

ぼくのおせわは家ぞくがしてくれます。学校では先生が手つだってくれます。ミニトマトはみになって、ぼくの体の力になってくれます。友だちはぼくとなかよくしてくれます。いつもぼくはだれかのおせわになっています。

ぼくはいつもがんばってべんきょうしているけれど、がんばれるのはまわりの人のおかげです。お母さんは「はんを作ってくれます。

お父さんはえい語を教えてください。お姉ちゃんはおそんでくれます。先生はじゆぎょうをたのしくしてくれ、友だちはやさしくしてください。ぼくのミニトマトも大きくなり赤いみをぼくに食べさせてくれます。みんなぼくのためにいろいろしてくれています。だからぼくは何かできるのか考えます。「ありがとう」を言いたいし、ぼくにみんながしてくれた心のお返しに、みんなにやさしくしたいです。家ぞくや先生がよろこんでくれるように、べんきょうをがんばります。友だちがよろこんでくれるようにやさしくします。ミニトマトがよろこんでくれるように、水をあげ話しかけて、おいしくいただきます。みんな、本とうにありがとうございます。